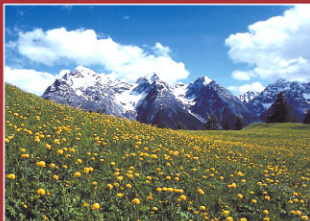




ハイジの国へようこそ

— Welcome to Heidi World —



スイス政府観光局
www.myswiss.jp



雄大な山々、緑の牧草地、のどかに響くベルの音。そんなアルプスの情景とそこに暮らす少女ハイジ(ハイディ)の物語は、世界各国で広く愛され、アニメや映画、テレビシリーズなどさまざまな形で紹介され続けてきました。その中で描かれてきた風景や素朴な暮らし、自然を愛する人々の心は時間が経っても変わることなく、今もスイスに息づいています。そんな“ハイジのふるさと”を訪ねてみませんか。季節を肌で感じながら星空を眺めたり、草原を走ったり…。大人も子供もハイジになって、それぞれの心に残るアルプスの思い出を見つけてください。



Switzerland

スイス



Graubünden

グラウビュンデン州



◎スイス旅行の情報は: www.myswiss.jp

INDEX

スイス・グラウビュンデン州地図/INDEX.....	3	【コラム】	
ハイジの原風景を旅する.....	4	ハイジの故郷に棲む動物たち.....	9
●マイエンフェルト.....	5	アニメーション	
●バート・ラガッツ.....	15	『アルプスの少女ハイジ』の世界.....	11
映画の舞台を訪ねて.....	22	ハイジの故郷とワイン.....	11
●ベルギューン.....	24	“ハイディ”の作家	
●サン・モリッツ.....	26	ヨハンナ・シュビーリの世界.....	17
●ウンターエンガディン地方.....	28	ハイジのお気に入り.....	19

■制作・発行：スイス政府観光局 Switzerland Tourism
 〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-2-6 虎ノ門第2ワイコービル3階
 TEL: 03-5401-5406 FAX: 03-5401-5427

■2007年7月改訂第3版発行(2002年5月初版)／30,000部

■編集・文：牧野祐子(スイス政府観光局) Yuko Makino, Switzerland Tourism

■デザイン：榎本富弓(グッドオフアー) Fuyumi Kashimoto, Design Office Good Offer

■Photos: Altes Bad Pfäfers, Bergün Tourismus, Grand Hotels Bad Ragaz, Graubünden Ferien, Heidiland Tourism, Scuol Tourismus, St.Moritz Tourism, Switzerland Tourism, Alexander Starcevic, Fumio Takashima, Shigeru Yoshida, Yuko Makino,

※情報はすべて2007年7月現在のもので、変更する場合もありますのであらかじめ、ご了承ください。

© Akio Watanabe

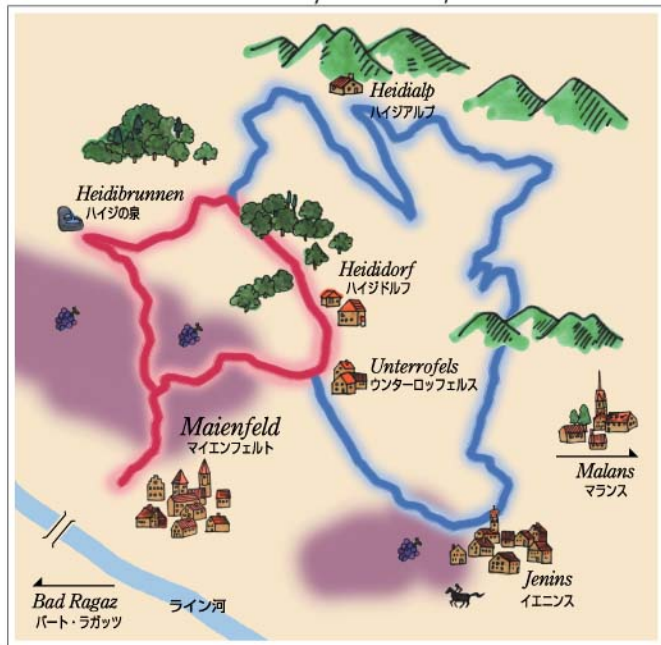






●ハイジの原風景を旅する

アニメ『アルプスの少女ハイジ』の原作『ハイディ』はスイス東部グラウビュンデン州の山村をモデルに、女流作家ヨハンナ・シュビーリが書いた有名な物語。当時、友人の住むイェニンスの村をよそ訪れた彼女は、隣村のマイエンフェルトやロッフフェルス村、バート・ラガッツなどを散歩しながら着想を得たという。物語は空想の話だが、村の雰囲気やブドウ畑の間を抜けていく小道、アルムの小屋など、現実の情景をかなり忠実に描き出している。マイエンフェルトからハイジ村、ハイジアルプまでのハイキングコースをのんびり歩き、美しいアルプスの自然を体験しよう。

* 山の上の牧草地のことを標準ドイツ語ではアルムだが、スイスドイツ語ではアルプと呼ぶ。

Maienfeld Map



チューリヒ駅  列車  マイエンフェルト駅  徒歩  ハイジドルフ

約1時間40分

約40分～1時間30分*

* 経由するルートによって異なる

かつてローマ街道の拠点であった古い歴史をもつ、アルプスの麓の小さな町マイエンフェルト。役場のある広場やブドウ畑、山へと続く小道、水飲み場など、作家ヨハンナ・シュビリーが愛し、ハイジの物語を思い描いた頃の面影を今も残している。物語の中で冬を過ごした村のモデルとなったハイジドルフを訪ねる赤の道、夏の家としておなじみの山小屋が待つハイジアルプまでさらに上る青の道という2つのハイキングコースがある。一帯は高品質なワインの産地としても知られており、美しいブドウ畑が広がっている。

-  Hiking
-  約1時間30分

赤の道ハイキングコース

マイエンフェルト～ハイジドルフ(オーバーロッフフェルス)～マイエンフェルト
Maienfeld – Heid Dorf (Oberrofels) – Maienfeld



小さなマイエンフェルト駅から赤の道はスタート。アニメにも登場していた石造りの塔が印象的なブランディス城横の小道を通り、壁画が描かれた役場が正面に建つ小さな広場へ。緩やかに上りの坂道をのぼって町を抜けると、その先にはマイエンフェルトを代表する上質の赤ワインになるブドウが栽培されている。



しばらくブドウ畑の間を歩いていくと、シュビリーを記念してつくられたハイジの泉がある、緑の美しい野原が見えてくる。ちょっと一休みしたら、時おり、放牧されている羊や牛がのんびりと草を食べる様子を眺めながら、さらに先へと進もう。

高台にあるホテルレストラン「ハイジホフ」が見えたら、ハイジドルフ（ハイジの村）と呼ばれるオーバーロップフェルス村はもうすぐ。ハイジとおんじが冬の間暮らした家のモデルであった古い農家「ハイジハウス（ハイジ博物館）」で、100年以上前のハイジの暮らしを垣間見ることができる。ハイジドルフからさらに夏のストーリーの舞台となったハイジアルプまで行く人は、ちょっとハードなハイキングコースである青の道へとチャレンジ。または、このまま赤の道をたどりウンターロップフェルス村へ向かい、来た道とは逆のルートを通してマイエンフェルトへと戻る。



ブランドイス城 Schloss Brandis

石造りの素朴なたたずまいのブランドイス城はマイエンフェルト城と呼ばれていたこともある由緒あるお城。この地をおさめていた領主ブランドイス男爵の居城だったこともある。現在は伝統の郷土料理から季節ごとの特別料理

まで幅広く堪能できるグルメレストランとなっている。中は「リッターサール（騎士の部屋）」や150年前につくられた塔の部屋をつかった「トゥルムレストラン（塔のレストラン）」、パーティー用のホール「フェストサール」などがあり、長い歴史の重厚な趣きを残している。

[E-mail] info@schlossbrandis.ch [URL] www.schlossbrandis.ch

ハイジの泉 Heidibrunnen

マイエンフェルトからハイジドルフへ向かう道の途中。地元の子どもの募金活動で集めたお金で、シュピーリを記念して1953年にヴァルト氏によりつくられた「ハイジの泉」がある。まわりの広場はピクニックエリアになっており、さらに上り道が続くハイキングコースの途中にあり、休憩スポットとして最適。



ハイジホフ Heidihof

ハイジハウスに近い高台にあり、見晴らしがよいホテルレストラン。のどかな風景と素朴な郷土料理で人気。ハイジホフからハイジハウスまでの道は、車の入れない道なので歩いていこう。

[E-mail] info@heidihof.ch

[URL] www.heidihof.ch



ハイジドルフ（オーバーロップフェルス） Heididorf (Oberrofels)

オーバーロップフェルスはハイジが冬の間滞在していた村として、通称ハイジドルフと呼ばれ親しまれている。ドイツ語で村のことをドルフ dorf、とくに小さな村のことをデルフリ dörfli という。日本語の訳書のなかでは、村の名前のように「デルフリ村」と紹介されているが、地名ではない。



ドルフラーダ Dorflada

ハイジハウスの入場券のほか、動物の置き物やシャツ、ポストカードなどお土産に最適な小物の数々を販売している。オリジナルスタンプと郵便ポストもあるので、旅の思い出にハガキや手紙を送ってみよう。また前に広がる草原ではかわいいヤギや羊に触れあうこともできる。



ハイジハウス(ハイジ博物館) Heidihaus

ハイジが暮らした冬の家のモデルといわれる、オーバーロッフェルス村にあった古い農家を、数年前に観光局が買い取り、ハイジの物語の頃の生活の様子を伝える博物館をオープン。物置、台所やワラのベッドのあるハイジの部屋などが再現されていて、ハイジの思い出の名場面がよみがえってくる。入場券は隣接のショップ「ドルフラダ」で購入する。

OPEN 3月～11月中旬の毎日 10:00-17:00

E-mail info@heidi-swiss.ch **URL** www.heidi-swiss.ch



ハイジの故郷に棲む動物たち



「アルプスの少女ハイジ」の中に登場する動物たち。ハイジのふるさとであるマイエンフェルト村があるグラウビュンデン州は、豊かな大自然を残している地域で、牛はもちろん、羊や鹿、ヤギ、マーモットなど、さまざまな動物をみることができるでしょう。とくにアニメの中で「大角のだんな」として紹介されている「シュタインボック Steinbock」は紋章(州旗)にも描かれている州のシンボル。アルプスヤギの一種で、伝説ではブクタン Bouquetin、英語ではアルパイン・アイベックス Alpine ibexと呼ばれています。また、同州にあるスイスの国立公園では、約170km²の広大な敷地の中で、アカシカやシュタインボック、アルプス・マーモットなど約30種類の動物のほか、約100種類の鳥類、約5000種の爬虫類/昆虫が生息しています。



Hiking

約5~6時間

青の道ハイキングコース

マイエンフェルト～ハイジアルプ～イエニンス～マイエンフェルト

Maienfeld – Heidalp – Jenins – Maienfeld



マイエンフェルトからハイジドルフまでは赤の道と同じ。そこからハイジの夏の家といわれる小屋があるハイジアルプ(オクセンベルク)へは、ルーヴァの森(Luvawald)を抜け、山道をひたすら登る約1~2時間ほどのハイキング。アルプとはスイスドイツ語で山の上の放牧地のことを意味する単語。標準ドイツ語ではアルムというため、「アルムの森」や「アルム的小屋」といわれていたのは、この辺りのこと。あの山小屋や周囲に広がる美しい牧草地などアニメのイメージどおりの世界が迎えてくれる。



そこから少し上に登ると谷を見下ろす展望スポット、カルトボーデンに到着。眼下に広がる素晴らしい眺望を楽しんだ後は、イエニンス方面へと下る道へ。作家シュピーリが滞在していたイエニンスの村を通り抜けたら、17世紀にブラウプルグンダ一種のブドウをこの地に持ち込んだフランスの有名な司令官デュロン公の記念碑が見えてくる。



ラインの谷を眺めつつ、ブドウ畑の間をロッフェルスへ向かう道は、シュピーリがよく散歩をしながらハイジの物語を考えていたといわれる思い出の道。ウンターロッフェルスからは、赤の道と合流して、マイエンフェルトへと戻る。

『アルプスの少女ハイジ』の世界

『アルプスの少女ハイジ』は、演出の高畑勲氏、場面設定・画面構成の宮崎駿氏、キャラクターデザインと作画監督の小田部羊一氏という、現在ではアニメ界の巨匠とされるドリームチームが手がけた記念すべき作品だった。初めてレイアウトシステムを導入したり、日常描写や登場人物の心理を丁寧に描くなど、当時としては画期的な手法で、後の日本のアニメに多大な影響を与えたといわれている。毎週30分、全52話で放映された1974年から現在まで、毎年何度となく再放送をくり返し、不朽の名作アニメとして子供から大人まで世代を越えて愛されてきた。



そびえたつ山、森の木々、青い空と白い雲、美しい牧草地など、原作で描かれたアルプスの情景が、アニメの中ではさらにあざやかによみがえった。空想の世界でなく、当時スイス各地にあった本物の牧童の暮らしぶりがイキイキと伝わってくる。そして、回を重ねるごとに見ている私たちはアニメというフィクションであることを忘れ、あの画面の中へと引き込まれていった。物語の枠を飛び越えて、アルプスとハイジの世界への扉が開かれたのだ。

高畑氏、宮崎氏、小田部氏をはじめ脚本、美術、音楽監督などを含めた10数名のスタッフは、放送開始1年前の1973年に約1ヶ月をかけ、原作の舞台となったスイス東部のマイエンフェルト、バート・ラガッツなどを取材してまわった。実際の風景を見ると、画面構成担当の宮崎氏がその卓越した画力とセンスで、現実を大きく変えることなくさらに魅力的な舞台をつくりだしていたことがわかる。また、オープニング曲で印象的なヨーデルやストーリー中に耳にしたベルの音などアルプスの雰囲気を感じ上げていた効果音も、ロケ中に実録した音を使用したものだという。こうした細部へのこだわりがアニメにあふれる、のどかな雰囲気と臨場感を支えていたのだろう。



マイエンフェルト Maienfeld
シュテットリプラッツ (市庁舎前広場) ▶



バート・ラガッツ Bad Ragaz
ドルフバート (村の公共浴場) ▶





オクセンベルク Ochsenberg
ハイジアルプ (ハイジ夏の家)



マランス Malans
村の手前、ブドウ畑が続く道



マランス Malans
18世紀に改修された村の教会と集落



ハイジの故郷とワイン



スイス人は一人あたりの年間消費量で世界のトップに入るほどワイン好きの国民。国内の生産量では足りず近隣諸国から輸入しています。さらに一定の品質を保つため国や地方の管理のもと葡萄の生産量が制限されているので、



スイスワインはほとんど海外に輸出されません。輸出量は国内生産量のわずか1%ほど。ほとんど産地しが流通しないような銘柄もあります。スイス旅行中は、そんな希少なワインと出会える絶好のチャンスなのです。

ハイジの故郷として知られるマイエンフェルト Maienfeld や隣接するフレージュ Fläsch、イエニンス Jenins、マランス Malans は高品質のワインの産地としても有名。とくに17世紀にフランスから持ち込まれたというブラウブルグンダー種 (ピノ・ノワール種) を使った赤ワインや、芳醇な白ワインなどがつくられています。このあたりでは、ワインと軽いスナックなどが楽しめるワイナリーのことを、もともと木製の压榨機をあらわす単語で「トルケル Torkel」と呼んでいます。ハイジの世界を歩いた後は、ぜひ「トルケル」で地ワインを味わってみましょう。



Bad Ragaz パート・ラガッツ

マイエンフェルトの隣にあるパート・ラガッツは、長い歴史を誇るスパリゾート。ハイジの物語でも、デーテおばさんが働いて、足の悪いクララが立ち寄ったというエピソードがある。

■パート・ラガッツ観光局

CLOSE 日曜・祝日

E-mail info@spavillage.ch

URL www.spavillage.ch



ドルフバート Dorfbad

1839/40年にプフェアースとラガッツを結ぶ道が開通し、タミナ渓谷に湧き出ている温泉を木製のパイプラインでもって運ぶことができるようになり、村人のためにつくられた共同浴場が「ドルフバート」。ネオクラシック様式の美しい建物の中には小部屋に仕切られた浴室と休憩室があり、つい最近まで実際に利用されていた。



グランドホテル・ホフラガッツ Grand Hotel Hof Ragaz **** グランドホテル・クエレンホフ Grand Hotel Quellenhof *****

1774年に建てられた領主（修道院長）の館に、タミナ渓谷の源泉をひき「ホフラガッツ」が最初のホテルとしてスタート。そして1869年には「ホテル・クエレンホフ」が完成。敷地内で隣接するこの2つの高級ホテルは最近リニューアルしてさらに快適になった。宿泊客が利用できるスパセンター「ToB」は総大理石の室内プールをはじめゴージャスな雰囲気。サウナ、ジャグジー、ウォーキングバス、打たせ湯、スポーツジムのほか充実のエステサロンも完備。周辺では美しい森を散策したり、ゴルフを楽しんだり、贅沢にリラクゼーションを追求できる。



■グランドホテル・ホフラガッツ

■グランドホテル・クエレンホフ

E-mail reservation@resortragaz.ch **URL** www.resortragaz.ch

タミナ・テルメ Tamina Therme

ホテルの宿泊者以外でも利用できるスパセンター。専門のドクターが常勤するメディカルセンターも併設している。室内プール2つと屋外プール1つのほかに、マッサージルームやジャグジー、ジェットバス、打たせ湯などがある。

OPEN 毎日7:30-21:00 (入館は20:00まで)

8/1、12/24、12/31、1/1は営業時間が異なる

CLOSE 12/25

E-mail taminatherme@resortragaz.ch

URL www.resortragaz.ch



タミナ渓谷 Taminaschlucht



8世紀から修道院の土地だったプフェアースのタミナ渓谷で温泉が発見されたのは13世紀のこと。道もない険しい崖の奥底だったにもかかわらず、効能が評判になり16世紀～17世紀にかけて木造の温泉場がつけられた。18世紀になって修道院が建てた最初の温泉ホテルは、近年に閉館となったが、再び改修され、現在では博物館として再びオープンしている。

パート・ラガッツ駅 ポストバス 又は 徒歩 タミナ渓谷
約20分 又は 約1時間15分

アルテス・パート・プフェアース Altes Bad Pfäfers

かつての由緒ある温泉療養所を改修してつけられた温泉と修道院（一部バラケルスの資料も含む）の歴史を伝える博物館。趣のあるレストランでは昼食を楽しむことができる。壁には、ハイジの原作者シュピーリをはじめアンデルセンやニーチェなど、ここを訪れた多くの有名人の肖像画が描かれている。奥にあるチャペルを抜けるとタミナ渓谷の入り口へと続く。遊歩道が設置されており源泉まで歩けるようになっている。

OPEN 5月・10月 11:00-17:00、6月～9月 10:00-18:00

E-mail info@altes-bad-pfaefers.ch **URL** www.altes-bad-pfaefers.ch



“ハイディ”の作家 ヨハンナ・シュペーリの世界

チューリヒから約25km、のどかな田園風景が広がるヒルツェル。外科医師の父、牧師の娘で詩人でもあった母のもと1827年にヨハンナは生まれた。自然に囲まれた生活や、敬虔なキリスト教徒であった母の言葉など、ヒルツェルで過ごした少女時代の思い出は、後の彼女の作品に大きな影響を与えていたといわれている。



『ハイディ』の作者
ヨハンナ・シュペーリ



『ハイディ』のほかにも、
子供のための本を多く書いた

兄の友人で法律家のヨハン・ベルンハルト・シュペーリ氏と結婚してからは、チューリヒに暮らし始めた。チューリヒ市役所の官房長に任命され、スイス連邦新聞の編集を行うなど多忙を極める夫に対して暇をもてあますヨハンナ。そんな孤独をまぎらすために書いていたという手紙がきっかけで、文才を認められた彼女は匿名で小説を書き始める。また、慣れない都会での生活に疲れていたのか、友人の住むイェニス村をよく訪れ、隣のロッフェルス村や美しいアルプスの情景の中を散歩しながら、あの“ハイディ(ハイジ)”を思いついたという。

自然豊かなアルプスへ戻りたい！と都会(フランクフルト)から戻ってくる物語の中の少女は、彼女自身の姿だったのかもしれない。最初のハイディ作品は1880年に匿名で発表されたが、続く翌年の続編の時には初めて本名をだして出版した。そして作家ヨハンナ・シュペーリの名は世に知られていくこととなった。その後、1884年に最愛の息子と夫を続けて亡くすという不幸にみまわれながらも、悲しみを乗り越え、1901年74歳でこの世を去るまで、シュペーリは子供のための物語を書き続けた。彼女の亡くなった後も様々な言葉に翻訳され世界中の子供たちに夢を与えてきた“ハイディ”。作品が発表されてから120年以上の年月が経った今でも、この物語に彼女が託したメッセージは色褪せることなく語り継がれているのだ。

ヨハンナ・シュペーリ記念館【ヒルツェル】 Johanna Spyri Museum【Hirzel】



1660年に建てられた古い学校を改修して、1981年にオープンしたシュペーリ記念館。かつてシュペーリや彼女の母親が通った学校でもあった。現在は、シュペーリの自筆原稿や手紙、作品に加え、家族との写真やゆかりの品々などが展示されている。

OPEN 日曜 14:00-16:00
(祝日・年末年始を除く)

URL www.johanna-spyri-museum.ch

シュペーリが夫と息子を失った後、児童文学作家として復帰した1886年から永眠する1901年まで暮らした家「エッシャーホイザー Escherhäuser」は、今もツェルトヴェーク Zeltwegに残っている。チューリヒで最初の集合賃貸住宅としてつくられた19世紀の建物で、シュペーリとも親交があったワグナーも別の部屋に滞在。現在、由緒あるこの邸宅内には彼女の作品や文書などの多くを保管する『ヨハンナ・シュペーリ文書館 Johanna Spyri-Archiv』を併設した「児童・青少年メディア研究所(SIKJM)*」がある。



*研究目的の利用の場合は電話での来館予約が必要 (www.sikjm.ch)

～ ハイジのお気に入り Heidi's Favorite Things ～

* * *



とろとろチーズ

* * *

国土のほとんどが山地というスイスでは長い間保存することができる硬質チーズが昔からつくられていた。古代ローマでも、「カゼウス・アルピヌス」と呼ばれ、高級品として珍重されてきたほど。夏になると、標高の高い山の上の牧草地（アルプ）へと移動しながら放牧していく。柔らかな高山植物や牧草を食べた牛やヤギの絞りとたての生乳を、そのまま近くの小屋に運びチーズはつくられる。100ℓの牛乳からフレッシュチーズは18kgできるが、硬質チーズならたったの8kg。つまり硬質チーズにはより多くの牛乳の栄養が凝縮されているのだ。熟成させたスイスチーズは溶かして食べる料理が多い。チーズを白ワインで溶かし、パンにからめて食べるおなじみのチーズフォンデュ、直径40cm程あるラクレットチーズのトロトロに溶けた切り口をナイフで



そぎ落とし、茹でたポテトにからめて食べるラクレットや、チーズトースト(㊸クルット・オー・フロマージュ ㊹ケーゼシュニツェ)などがおすすめ。

* * *



スイスの黒パン

* * *

いつも黒パンを食べていたハイジが、フランクフルトの家でだされた柔らかい白パンをおばあさんへのおみやげに持ち帰ったエピソードは有名。小麦でつくったパンが白パンで、ライ麦などでつくったパンが黒パン。当時のヨーロッパでは、噛みごたえのある黒パンに比べ、柔らかい白パンは上流社会の人が食べるパンだったという。しかし現在では、素朴な味わいがありビタミンや食物繊維の豊富な黒パンの人気も高い。



* * *



セントバーナード犬

* * *

スイスは犬好きが多く、レストランや電車で犬を連れてくる人を良くみかけるが、アニメの中でヨーゼフとして登場していたセントバーナード犬を飼っている人は少ない。もともとセントバーナード種は牧羊犬や猟犬ではなく、優しく勇敢で主人に忠実な性格で鋭い嗅覚を持ち、遭難者を助けてきた山岳救助犬なのだ。かつてシーザーやナポレオンも越えたイタリアとスイスを結ぶサンベルナル峠で、雪の中を首からブランデーの樽をぶらさげて、アルプスの峠を越える多くの旅人を救ったエピソードはあまりにも有名。峠の名前であるフランス語のサンベルナルを英語読みにしたセントバーナードがこの犬の名前として広く知られている。



* * *



アルプスの花畑

* * *

春になって山の雪が解け出すと、美しい緑の芽吹きとともに野の花の群生が見られる。まだ頂きに雪をかぶった山の裾野に広がる花畑はまさにメルヘンの世界。とくに緑の草原に点々と咲くあざやかな黄色の花々は印象的。標高1000～1500mにある牧草地では雪解けとともに色とりどりの花が満開になるが、放牧が始まるとエサとして刈り取られてしまうので夏までのお楽しみ。かわりに夏になると、さらに標高の高い2000～3000mぐらいの山地に丈が低く小さくて可愛らしい高山植物の花が咲き始める。





干し草のベッド

屋根裏に積んであった干し草にシーツをかぶせただけの簡単なベッド。小さな窓からこぼれる月や星あかりの下、草の香りに包まれてハイジは眠りにつく。あの印象的なシーンをぜひ体験してみたい！という要望は多く、現在、スイスでは200以上の農家で“Schlaf im Stroh (ワラで眠ろう)”体験が楽しめるようになっている。今までの設備の整ったホテルでの滞在とはまったく異なるユニークな農家滞在中ですっかりハイジの気分が味わえる。

詳しくは→ www.abenteuer-stroh.ch/

※ 普通の農家での滞在なので最低限の語学力は必要



アルプスの夕暮れ



ハイジが“山が燃えている”と大興奮したアルプスの夕暮れ。とくに山に残雪が残る春や新雪の降る秋は、山の斜面が白いスクリーンのように、刻々と変化する夕暮れの光りを映し出す。日が落ちるまでのさまざまな色はアルプスならではの贅沢な瞬間。ドイツ語では赤々と燃えることを意味する単語を使いアルベングリュエンという。



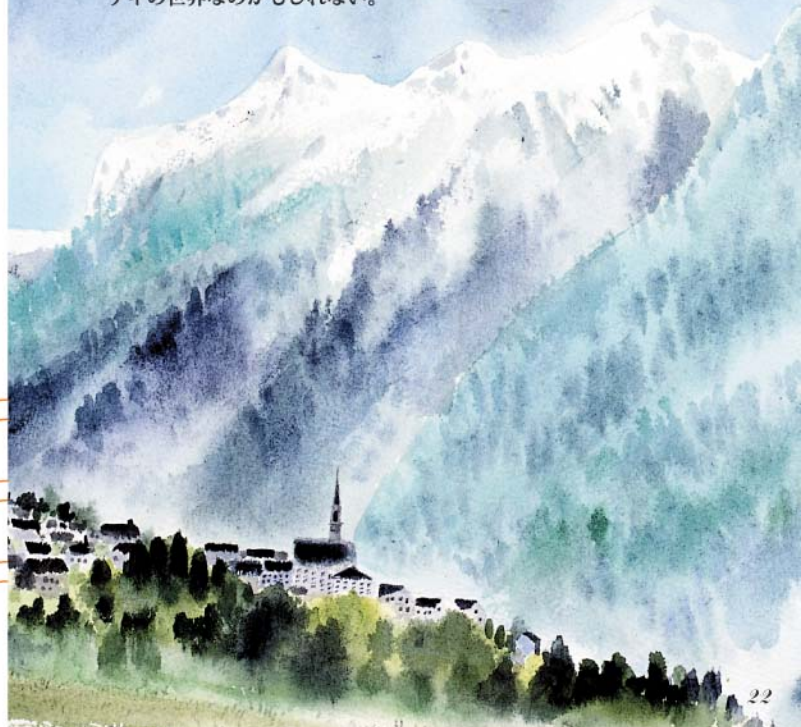
森の木々



スイスの国土の約3割を占める森林。全国で見ると針葉樹林と広葉樹林が6:4の割合で分布しており、秋には赤や黄色、オレンジなど色とりどりの美しさをみせてくれる。アルプス地方で見ると、やはり針葉樹林が8割を占めていて、うち半分以上がトウヒ（スプルース）で、順にカラマツ、マツ、ブナ、モミの木と続いている。

映画の舞台を訪ねて

スイス人の心のシンボルともいわれるハイディ（ハイジ）は、1920年代から2000年の最新作まで数々の映画やテレビドラマとして実写版で撮影されている。ロケ地はさまざまだが、マイエンフェルトと同じグラウビュンデン州が多い。ほとんどがアルプスの秘境といった雰囲気山のあいまいの村や谷だ。雄大な山並、美しい小川、湖、素朴な村など、それぞれの撮影クルーたちが追い求めた理想のイメージがそこにあったのだろう。ある意味、現代の我々が最も近いと思う、知られざるハイディの世界なのかもしれない。



Unterengadin Map



映画制作年表

制作年	制作国	題名	映像・時間
1920年	アメリカ	「ハイディHeidi」	無声映画
1937年	アメリカ	「ハイディHeidi」*	モノクロ 88分
1952年	スイス	「ハイディHeidi」	モノクロ 98分
1954~55年	スイス	「ハイディとペーター Heidi und Peter」	カラー 95分
1965年	オーストリア ドイツ	「ハイディHeidi」	カラー 94分/110分
1967~68年	アメリカ ドイツ	「ハイディHeidi」 「ハイディ故郷に帰る Heidi kehrt heim」	カラー 101分
1979年	アメリカ	「ハイディの新しい冒険 The New Adventures of Heidi」	カラー 105分
1979年	スイス ドイツ	「ハイディ Heidi」	カラー 26話/計11時間
1989年	アメリカ	「勇気の山 Courage Mountain」	カラー 94分
1993年	アメリカ	「ハイディHeidi」	カラー 193分
2000年	スイス ドイツ	「ハイディHeidi」**	カラー 90分

* 名子役スターとして知られるシャーリー・テンプルがハイディを演じて注目された作品

** シュペーリ没後100周年を記念してつくられた現代版のハイディ

「Heidi ハイディ」 撮影：1952年

ロケ地：ラッチ、アルプ・ファライン、フォルクラ・スールレイ、
アルプ・ラングアルト、ツェレリーナ



「Heidi und Peter ハイディとペーター」 撮影：1955年

ロケ地：ラッチ、アルプ・ファライン、フォルクラ・スールレイ、アルプ・ラングアルト、
モルテラッチ氷河、マイエンフェルト、パート・ラガツ

1952年にアルブラ渓谷の牧歌的な山里ベルグユーン周辺で撮影されたモノクロフィルムの映画。スイスでは最初のハイディ作品で、とても人気があった有名な映画のひとつ。好評だったので続編として「ハイディとペーター」というスイス初のカラーフィルム映画が1955年につくられた。ベルグユーンの上に位置するラッチは映画の中で村のシーンが撮影されたところ。当時とまったく変わらない美しい風景が広がっている。夏の山小屋のシーンは、フィリズールの上にあたるファラインのアルプで撮影された。

制作年：1952年/1955年

制作会社：Praesens Film, Zürich

放映時間：98分



Hiking

ハイディ・アルプスの道

約2～3時間

シュトゥール/シュトゥールス～ファライン

Stugi/Stuls – Falein



ベルギューンの村から、ポストバスで約10分のシュトゥール、または15分のラッチからファラインの山小屋までは「ハイディ・アルプスの道」と呼ぶハイキングコースになっている。シュトゥールは、14世紀のプレスコ画が美しいプロテスタント教会が印象的な村。ベルギューンの村を眼下に、迫力のエラ山脈を眺めながら進むと、時折、映画の撮影場所を示した看板などがある。しばらく美しい山の道を歩いていけば、フィリズールの上にあたるファライン（標高約1840m）のアルプへと到着。撮影でも使われた山小屋が今も変わらず迎えてくれる。



チューリヒから
ベルギューンまで
列車で約2時間40分
(クールで乗換)

■ベルギューン観光局

E-mail ferien@berguen.ch

URL www.berguen.ch

「Heidi ハイディ」 撮影：1979年

ロケ地：グレヴァザルヴァス、チャンプフェー、チューリヒ、
フランクフルト(独)

1979年にはオーバーエンガティンの谷でテレビドラマが撮影された。原作の物語にかなり忠実なストーリーで大ヒットした。今でもハイディという、このテレビシリーズを思いだすスイス人も多いという。主なロケ地となったのは、マローヤ峠の奥にあるグレヴァザルヴァス村。バス便も途中までしかなく、歩いてのみのアクセス。山や氷河に囲まれた大自然とスレート葺きの家が点在する素朴な集落は、まさに秘境の地と呼ぶにふさわしい。



制作年：1979年

制作会社：Swiss Television, Teletvetia Geneva, Intertel Basel

放映時間：各25分(11時間)

Hiking

ハイディ・花の散歩道

約30～50分

チャントレッタ～サラストランス～ハイディヒュッテ

Chantarella – Salastrains – Heidihütte



1979年に制作された有名なテレビシリーズの撮影で使われた山小屋(ハイディヒュッテ)は、もともとプレガリア谷で約200年前に建てられた年代物の小屋。撮影はグレヴァザルヴァス村でおこなわれたが、撮影終了後はサン・モリッツに移築された。



サン・モリッツの町の中心からコルヴィリアやピッツ・ネイルへと登るケーブルカーへ。途中のチャントレラ駅でおりて、サラストランスのレストランへと向かう。そこからヒュッテまでの道は、気軽に楽しめる絶景のショートハイキングコースになっている。

Hiking

約30~40分

ウルスリの鈴 (シェレンウルスリ) の道

ハイディヒュッテ～サン・モリッツ

Heidihütte – St.Moritz



ハイディヒュッテでひと休みした後は、サン・モリッツの街へさらに約30分ほどの爽やかなハイキングが楽しめる。途中には、童話画家アロイス・カリジェの代表作となった「ウルスリの鈴」の物語が描かれたパネルが設置されている。



チューリヒから
サン・モリッツまで
列車で約3時間30分
(クールで乗換)

■サン・モリッツ観光局

E-mail stmoritz@estm.ch

URL www.stmoritz.ch

「Heidi ハイディ」 撮影:2000年

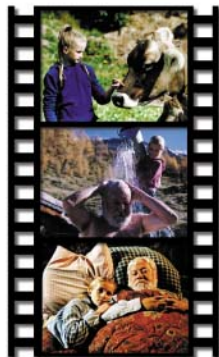
ロケ地: シュクオール、セント、アルプ・ツェツィナ、ラヴィーン、スーシュ、アルデッツ、ミュスタイア谷、ベルリン(独)

ハイディの生みの親である作家ヨハンナ・シュピーリ没後100年を記念して、2001年に公開された現代版のハイディ映画。舞台として選ばれたのは、紀元前からの古い歴史があり、ロマンシュ語という独特の言語が残っているウンターエンガディンの谷。アルプスの大自然に囲まれた村々でさまざまなシーンが撮影された。

制作年: 2000年

制作会社: Vega Film (Zürich)

放映時間: 90分



セント Sent



典型的なエンガディンの情景が広がる魅力的なセント村は、撮影スタッフが感動し多くのシーンを撮影したところ。撮影にも使われた山小屋レストラン「ホフ・ヴァスツウール Hof Vastur」は村の中心から歩いて約1時間。セントの村と谷を見下ろす素晴らしいパノラマが楽しめる。ハイディの母親の家になっていた「ホテル・レツィア Hotel Rezia」やハイディの学校、印象的なネオ・ゴシック様式の教会など、村の中には随所に映画に登場した場所がみられる。



■セント観光局

URL www.sent.ch

シネストラ谷 Val Sinestra



セント村から森を抜けて、神秘的なシネストラ谷 Val Sinestraへと足をのぼしてみよう。ペーターが自転車から落ちたシーンが撮影された道でもある。自転車をレンタルして行くのもよいが、のんびりと馬車の旅も楽しめる。20世紀初頭までさかのぼる歴史を誇るクラシックなホテル・レストランも山中にある。

■ホテル・ヴァル・シネストラ Hotel Val Sinestra

E-mail val-sinestra@bluewin.ch URL www.sinestra.ch

シュクオール Scuol

シュクオールはウンター・エンガディン地方の中心地。エンガディンに共通の特徴であるスグラフィット紋様で飾られた独特の家々が並ぶ。古くから秘湯の里として知られており、約20種類の鉱泉が現在確認されているが、そのうちの主に9種類がスパなどに利用されている。シュクオールの駅とともに映画シーンに登場しているプラツェッタ広場のように、村の各所には2つの蛇口がついた水飲み場があり、普通の水と鉱泉を飲むことができる。冬はスキリゾートとして有名だが、春から秋にかけては谷を一望する壮大なパノラマビューが堪能できるハイキングがおすすめ。



■シュクオール観光局

E-mail info@engadin.com URL www.scuol.ch



スパセンター Engadin Bad Scuol

1993年に改修されたシュクオールのスパセンター。ローマン・アイリッシュ風呂やサウナジャグジー、塩水風呂、室内プールなど設備も充実している。中でも、奥に広がる山や美しい木々の眺望が楽しめる屋外の温水プールがおすすめ。他にも各種マッサージプランも用意されている。アルプスの清らかな空気のもと、身も心もいやされる、寛ぎのひとときをどうぞ。

OPEN 8:00~21:45

E-mail bad@scuol.ch URL www.scuol.ch



モッタ・ナルルス Motta Naluns

紅葉が美しい谷の景色を一望するなら、赤いロープウェイに乗って標高2150mのモッタ・ナルルスの展望スポットへ。シュクオール方面、フタン方面、セント方面へと降りていくパノラマハイキングが楽しめる。

E-mail info@bergbahnen-scuol.ch

URL www.bergbahnen-scuol.ch



タラスプ城 Schloss Tarasp

11世紀まで遊るタラスプの丘にそびえる古城は、クール司教、チロル公、ハプスブルグ家など次々と持ち主は変遷したが、近年、ドイツ人実業家の手により大規模に修復された。ガイドツアーに参加すれば、城の内部を見学することができる。16~18世紀の家具や装飾などは、一見の価値あり。

ガイドツアー【6/1~7/10】14:30【7/11~8/20】11:00,14:30,15:30,16:30
【8/21~10/15】14:30,15:30【冬期(クリスマス~イースター)】火・木16:30

※変更の場合もあるので要確認。団体は要予約。

E-mail info@schloss-tarasp.ch URL www.schloss-tarasp.ch



アルデッツ Ardez

ヨーロッパ文化財として保護されたアルデッツの村は、多くの住民が今では希少となったロマンシュ語を話す地域で生活の中にもエンガディンの伝統が生きている。映画では、天井が崩れる事故でハイディのお母さんが突然命を失う場面が撮影された。その家は公開されていないが、有名なアダムとイブの壁画が描かれた美しい家をはじめ、村に残る古い民家のみてまわるのも楽しい。

■アルデッツ観光局 E-mail info@ardez.ch URL www.ardez.ch



ラヴィーン Lavin



のどかなラヴィーンの村の上に広がるアルプ・ツェツニナ・ダダント Alp Zetzina Dadint (約2000m)の山小屋は、ハイディのおじいさんと暮らした夏の家として映画の大半が撮影されたロケ地。

長い道をひたすら登る中・上級者向けハイキング。アルプの奥には、23の山上湖が点在するマクン湖 Lais da Macun (2650m) が幻想的な雰囲気をもたらしている。希少な植物や鉱石が見られる穴場のスポット(7月～9月末まで)。2000年夏に、スイス国立公園の一部として認定された。約6時間ほどのハイキングだが、辿り着いたときの感動は格別なもの。



■ラヴィーン観光局 [E-mail](mailto:lavin@engadin.com) lavin@engadin.com [URL](http://www.lavin.ch) www.lavin.ch

スーシュ Susch

かつては北から南へとフリューラ峠を通してロバや馬車を運んだ商人が行き交った歴史をもつスーシュには古い農家や商人の家が残っている。映画では嵐の中、大雨で視界も見えなくなったハイディをおじいさんが助けにいくシーンが峠の入口付近で撮影されている。

■スーシュ観光局 [E-mail](mailto:susch-info@engadin.net) susch-info@engadin.net [URL](http://www.susch.ch) www.susch.ch

ミュスタイア谷 Val Müstair

美しい山の湖に飛び込むハイディ。映画のオープニングシーンはミュスタイア谷奥にあるリムス湖 (Lai da Rims) で撮影された。イタリア国境沿いに位置するこの小さな谷を有名にしたのは世界遺産に選ばれた聖ヨハネ修道院。近年になって壁の下から発見された9世紀初頭のフレスコ画は必見。

■ヴァル・ミュスタイア観光局

[E-mail](mailto:info@val-muestair.ch) info@val-muestair.ch [URL](http://www.val-muestair.ch) www.val-muestair.ch

聖ヨハネ・ベネディクト会修道院

Benediktinerkloster St.Johann in Müstair

8世紀にカール大帝の命によって建てられ、イタリアに抜けるアルプス越えルートの拠点として重要な役割を担っていた。12世紀から修道女のための女子修道院となっている。修道院は小さく質素な建物だが、19世紀の壁画の下から近年、聖書の物語とキリストの生涯を描いた9世紀初頭のフレスコ画が発見され、1983年ユネスコの世界遺産に認定。



■教会

OPEN 5～10月：7:00-20:00、11～4月：7:00-17:00

■ミュージアム

OPEN 5～10月：月～土曜9:00-12:00、13:30-17:00 日曜・祝日13:30-17:00
11～4月：月～土曜10:00-12:00、13:30-16:30 日曜・祝日13:30-16:30

CLOSE 12/25 [E-mail](mailto:museum@muestair.ch) museum@muestair.ch [URL](http://www.muestair.ch) www.muestair.ch

MEMO/STAMP

※スイスの情報: www.myswiss.jp





©ZUIYO

DAVOS

HEIDI'S WORLD



HEIDI CLUB

~ Cafe & Goods shop ~

「アルプスの少女ハイジ」カフェ&グッズショップ「ハイジクラブ」が秋葉原にオープン!

あの「白パン」や「オリジナルチーズケーキ」など、ハイジの世界をイメージしたメニューをご用意。また、店内にはところせましとハイジ関連商品、限定商品などが並ぶ。ハイジ気分がひたって、お茶やランチを楽しんではいかが。

- 【所在地】東京都千代田区神田練馬町68番2
第二横島ビル2階
- 【電話番号】03-5297-5812
- 【営業時間】AM 11:00 ~ PM 7:00
(ラストオーダー PM 6:30)
- 【アクセス】
 - 【JR】山手/京浜東北/総武線
「昭和通り口」より徒歩 3分
 - 【東京メトロ】日比谷線
「3番」出口より徒歩 3分
 - 【MIR】つくばエクスプレス線
秋葉原駅「A3」出口より徒歩 2分



Official Homepage >>><http://www.heidi.jp>

ダヴオス アルプスの暮らしが息づく谷

ダヴオス観光局: www.davos.ch



Welcome to
Heidi World

www.myswiss.jp